

エリア ウェブ

峡東教育事務所
地域教育支援スタッフ
TEL 0553-20-2737
FAX 0553-20-2733

回覧・配布をお願いします。増し刷り配布はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

ご意見・ご感想はこちらまで Email : saegusa-aszn@pref.yamanashi.lg.jp

「年越し」

2008年もあとわずかとなりました。どのような1年間をお過ごしでしたか。

以前は、12月ともなると障子貼りや畳・床板を上げての大掃除、すす払いなど、新しい年を迎えるために気ぜわしく準備をする風景が、近所のあちこちで見かけられたものです。子どもたちもあかぎれを我慢して、古い障子紙をはいだり畳の埃をはいたり雑巾がけをしたりと、お手伝いの場がたくさんありました。

どんなに時代が進んでも、日本古来の伝統は大事にしたいものです。新しい年をきちんと迎えるために、簡単でも正月らしい準備を整えたいものです。そこで、年末年始の伝統行事や、知ればさらに正月気分が高まるマメ知識を紹介しますので、行く年、来る年にさまざまな思いを込めながら、家族そろって気持ちの良い新年をお迎え下さい。

〔餅つき〕正月の餅は、円く平たくし大小2つを重ねて鏡餅(かがみもち)にして神仏に供えます。鏡餅は28日か30日にお供えするのが普通で、29日は「九(苦)餅」といい、また、31日は「一夜飾り」といって避けられます。

峡東地域では、鏡餅の他に「切り餅」、「牡丹餅」、「大福餅」、落花生と青のりに砂糖と塩で味付けをした「豆餅」など、さまざまな種類の餅をつくって楽しんできました。かつては、家族の人数分つく家が多く、早朝から餅つきを始めて、午前中一杯かけて七臼から八臼もつくという家中上げての大仕事でした。

〔年越し蕎麦〕大晦日に蕎麦を食べるようになったのには諸説あります。蕎麦の細長さから、「細く長く、健康に暮らせるように」と願いを託したという説や、蕎麦の切れやすさから「1年間の苦勞や災いをさっぱり切り捨て、翌年に持ち込まないようにする」という説など、蕎麦の形状や性質に由来するようです。忙しくても手軽に食べることができ消化も良い蕎麦です。ここはひとつ縁起

を担いでみてはどうでしょう。

〔除夜の鐘〕除夜の鐘が108回つかれるのは、「人間の煩悩(欲望や迷いなど、人の心の苦しみの原因となるもの)を払うためといわれます。静寂の中に身を置いて、どこからともなく響いてくる除夜の鐘を聞きながら、行く年をふり返り、来る年に思いを馳せることも一興かもしれません。



〔初日の出〕「ご来光」として、古くから信仰の対象とされていた日の出。新年第1日目の日の出は、これからの日々を輝きに満ちたものにしてくれそうな気がします。

〔初夢〕初夢は元旦ではなく、1月2日に見る夢のことを指します。初夢に見ると縁起の良いものとして、「一富士・二鷹・三茄子(なすび)」が有名ですが、これに、「四扇・五煙草・六座頭」が続きます。七福神の乗った宝船を枕の下に入れて眠ると、良い夢が見られるといわれます。

〔書初め〕吉書(きっしょ)、初硯(はつすずり)という呼び方もあります。江戸時代には、元日に汲んだ水(若水)で墨を磨り、^{えぼう}恵方(南よりやや東の方向)に向いて書く習慣があったそうです。現在ではそのような習慣も薄れていますが、気を引き締めて新年の目標を紙にしたためておくのはいかがでしょう。

〔お節料理〕

正月に食べるお節料理は、もともとは暦の節目である節句(端午の節句、重陽の節句など)に食べる祝いの料理のことを指していました。

お節料理は、邪気を払う薬酒・屠蘇、正月祝いにかかせない祝い肴三種、煮しめが基本ですが、重箱に詰められた料理をお節料理と呼ぶことが多

いようです。何をつくるかは家庭や地方によってもさまざまです。関東ではごまめ、数の子、黒豆の3種類を祝肴三種と呼びます。

〔伝統の遊び〕年末年始に向けて、各テレビ局ではバラエティー、お笑い、スポーツ、ドラマなど、視聴者の目を引きつけようと特別番組を組んでいます。しかし、特別番組も恒例となって、何となくテレビと共に過ごしているなど感じている人も多いのではないかと思います。

そんな時こそ、テレビから離れた家族団らんを取り戻すチャンス。小さい頃、凧揚げを競ったり、福笑いで汗をかくほど大笑いしたりと、夢中にな

って遊んだ記憶をよみがえらせ、わが子や親戚の子どもたちに遊ぶことの楽しさを味わわせてあげようではありませんか。

〔七草〕1月7日は人日（じんじつ）の節句であり、七草粥を食べることから七草の節句という呼び方もされます。

七草粥に入れるのは、セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロの「春の七草」です。無病息災を祈り食されます。味付けは一般的にあっさりとした塩味で、新年会やお節料理で疲れた胃を休めるという効果もあるようです。

「元気アップ親子セミナー」 甲州市立勝沼小学校

11月9日（日）甲州市の勝沼小学校で「元気アップ親子セミナー」が開催されました。

これは、文部科学省からの委託を受け、県スポーツレクリエーション協会が実施したもので、親の意識の変容が子どもたちの体力向上へとつながることをねらいとして行われ、親子で一緒に運動を体験しました。

当日は、50組以上の親子が参加し、親子で「元気アップ・エクササイズ」や「アイダアイダ」の体操を体験したりしました。参加した親子は、それぞれ楽しそうに運動に親しんでいました。

また、保護者に向けては、子どもの体力の現状や正しい生活習慣を身につけ、運動することの重要性についてのセミナーも開かれました。



東山梨地区駅伝競走大会

第21回「東山梨地区駅伝競走大会」が、11月16日（日）甲州市塩山総合グラウンドを会場として開催されました。

当日は、小雨混じりのあいにくの天候でしたが、参加した65チーム（小学生男女・中学生男女・一般：1チーム5人編成）の選手たちは、グラウンドをスタートしアップダウンの激しいコースを周回するかたちで、タスキをつなぎながら健脚を競いました。

結果は、次のとおりです。

小学生男子	中学生男子
カノイワファイターズ	勝沼中
塩山ミニバスA	山梨北中
祝クラブ	塩山北中
小学生女子	中学生女子
塩山ミニバスA	勝沼中
塩山ビーバースA	松里中バスケA
日下部女子ミニバス	塩山中女子ハンド部A
一般	
塩山駅伝クラブA	
山梨市A	
山梨市B	



芦川小学校 「ほかほか祭」

11月15日(土)笛吹市立芦川小学校の「ほかほか祭」が行われました。小・中学生合わせても31名の小規模校ですが、保護者・地域の方々・老人クラブの方々等100名以上が体育館に集いました。都留文科大学生も8名(教員を含め)協力していました。夏休みには水泳指導にも協力してくれているそうです。

小学校の行事ですが中学校の全面協力を受けて行われ、数多くの催し物が行われていました。

「好きなおもちゃをつくってね!」のコーナーでは、松ぼっくりやどんぐりを材料にして、リース・けん玉・どんぐりごま・マラカス・ツリーかざり等を児童と一緒に、校長先生を始め大人も作っていました。



＜児童と一緒にリースを作る校長先生＞

「的当てゲーム」のコーナーでは、レタス・白菜・ジャガイモ・ゴボウ・大根の景品を目標に多くの方々に参加していました。

「発表」では、最初に小学生の歌の発表がありました。引き続き、今日までの取り組みをスクリーンに映し、苦労したこと・楽しかったことを児童が説明をしていました。

「昔の遊び」のコーナーでは、地域のおばあちゃん・おじいちゃんから児童が、あやとり・ゴム鉄砲・羽子板・お手玉・けん玉の遊びを教えてもらっていました。体育館内は、子ども達の大きな歓声であふれていました。



＜昔の遊びを教わる児童達＞

「昼食」には、保護者の協力を受け、児童が栽培したジャガイモ・コンニャク等を材料に、ほうとう・みそコンニャク・焼きいも・じゃがバターが参加者に振るまわれました。午後に行われた「炭の販売」では、校庭の横にある炭焼き小屋で作った炭が一袋500円で販売されました。売上金の一部はユニセフに寄付するそうです。

天候にも恵まれた一日でしたが、児童・教師・保護者・地域の方々が多数集まり、地域の方々の全面的な協力を受けたこのお祭りに参加でき、なお一層温かく感じられた一日でした。

峡東地域 生涯学習ボランティアバンク の案内

＜生涯学習ボランティアバンクQ & A＞

Q 1 生涯学習ボランティアバンクって何？

A 地域、公民館、グループ・サークル、個人、学校等に、生涯学習を推進するための指導者（講師）の情報を紹介する人材バンクです。

Q 2 どのような分野があるのですか？

A パン・ケーキ作り・料理・食指導、健康・運動指導、手編み指導・パソコン指導・フラワーデザイン・経理事務指導、教育・高齢者ボランティア指導・地域づくり、ソフトボール・弓道・水泳・キャンプ活動・レク指導、美術・絵画・絵手紙・尺八・合唱・三味線・華道・謡曲・囲碁・俳句の指導等

Q 3 報酬等の経費はかかるのですか？

A 指導者への報酬は原則無料です。ただし、交通費・材料費・食料費等の実費は当事者間の話し合いで決めていただきます。

Q 4 申込をするときはどうしたらよいのですか？

A 窓口の峡東教育事務所（0553-20-2737 担当：中林）に連絡してください。詳細を説明します。また、バンクの一覧冊子（市町村行政機関・学校・公民館等には配布済み）の必要な方も連絡してください。

「楽しく集う花びらアートづくり」体験教室

11月16日(日)に、石和町スコレーセンターで「楽しく集う花びらアートづくり」体験教室を実施しました。この事業は、山梨県社会教育振興会という社会教育の振興を目的とする組織に加盟している団体が、県内各地で、児童・生徒及び保護者を対象として、様々な体験教室を行うものです。

当日は、笛吹市石和町内の小学生・保護者53名が参加して、国際女性教育振興会山梨県支部の8名の方を講師に、押し花を利用してしおりと万華鏡づくりを行いました。初めての花びらアートづくりの体験でしたが、素晴らしい出来栄に、あちこちから喜びの声が上がりました。父親の参加も多く、親子で助け合って作品を作る微笑ましい姿も見られました。作品完成後は、互いに見せ合ったり、感想を言い合ったり、とても楽しい意義のある事業になりました。今後も、このような体験教室を実施していく予定になっているとのことです。



広げよう！つなげよう！

子ども読書の輪！！

11月23日、24日の2日間、子ども読書地域フロンティア事業やまなし実行委員会主催（文部科学省委託）による「やまなし子ども読書フェスティバル」が山梨市民会館で開かれました。1日目は「中高生のための読書フェスティバル」と題して、読書トークライブが行われました。

トークライブには、作家の見城美枝子さんをはじめとして、平川久さん（塩山高校教諭）、佐野このみさん（上條中1年）、根津真李奈さん（甲府一高1年）、古屋哲君（塩山高3年）の5名が出演しました。はじめに、見城さんが自身の読書との関わりについて語った後、出演者各自が読書体験を発表しました。



佐野さんは、幼少期に祖母が独自のストーリーで昔話を展開してくれるのが楽しく、やがて、絵本から伝記、ミステリーへと発展して今は「源氏物語」（瀬戸内寂聴訳）に夢中ということでした。根津さんは、星新一のショートショートにはまって以来、マンガとは違って文字から想像する読書の楽しさに目覚めたそうです。古屋君は、中高生になってハンドボールや柔道の部活動が忙しく読書から遠ざかっていたが、教職に就きたいと決意して以来、教育関係の書物に取り組んでいるということでした。平川さんは、A、クリスティなどのミステリーから入って、やがて各種の新書へと発展したそうです。

このように、各自各様本と親しむきっかけがあり、読書の目的や楽しみを持っていることがわかりました。パネラーの発表をもとに、読書生活をはじめのきっかけや読書の意義について、見城さんは次のようなコメントでまとめました

幼少期に、お母さんが読んでくれる、お父さんが本を選んでくれることが子どもにとってはうれしく、読書に親しむきっかけとなる。

本は何度でも読み返すことができる。読書をしている間はゆっくりとした時間が流れる。

読書は、想像力を豊かに育む高度な知的世界へと誘う。

読書を通して、多くの出会いと別れ、恋愛や生き方などの擬似体験が積み重なって、心のひだが多くなり高く深い人間性が培われる。

本を読むことで騒がしい雰囲気がやがて静かになり、いつの間にか自制心や自律心が育つ。

2日目は、「親子で楽しむ読書フェスティバル」をテーマに、絵本作家の高畠純さんの講演や「やまなしのむかしばなし」の読み聞かせ、「こどもにすすめたい本の紹介」、大道芸人による夢のステージのプレゼントなど各種の催しが繰り広げられ、たくさんの親子連れでにぎわいました。